

徳大病院でも出生前診断

来月から検査費20万円弱

妊婦の血液で胎児のダウン症などの染色体異常を調べる新しい出生前診断で、国立成育医療研究センター(東京)などの臨床研究グループは13日、検査の実施を予定している16施設を公表した。この中には徳島大学病院も含まれており、各施設は近く、日本医学会に設置された認定・登録のための委員会に計画を申請する。委員会は3月中に審査を終え、認定された施設は4月から検査を始める見通し。

検査の実施に向けた準備を進めてきた。2月には院内の倫理委員会が実施が承認されている。

ほかにも全国の施設で実施を計画しており、準備でき次第、公表するという。

徳島大によると、検査的な問題をクリアするた「必要な」と言「遺伝専門医がいることや」は日本産科婦人科学会が「めにも、限られた施設が」きちんとした基準で検査「している。」徳島大病院は、院内に「制も整っているとして、」遺伝カウンセリングの体

基ついて行い、染色体異常の子どもを妊娠した経験がある人や、超音波(エコー)検査で胎児に異常が疑われる妊婦などに対象を限定する。検査には産婦人科医の紹介状が必要で、検査費用は1件あたり20万円弱になる見通し。

奇原裕教授(産科婦人科学)は「胎児の異常が疑われる場合に血液を使ってふるい分け検査をし、最終的には羊水検査で確定診断を行う。倫理

徳島大病院や国立成育医療研究センター以外の実施予定施設は、北海道大、岩手医大、宮城県立こども病院、新潟大、東京女子医大、昭和(東京)、横浜市立大、名古屋市立大、藤田保健衛生大(愛知)、大阪大、兵庫医大、愛媛大、国立病院機構九州医療センター(福岡)、長崎大の各病院。